

## 日本の神々と「憲法第九条」の不思議な関係

二〇〇七年の新年を迎え、全国各地で初詣が行われました。安倍総理も民主党の小沢代表も、四日同じ日に伊勢神宮を訪れました。

日本の総理が靖国神社を参拝すれば、中国、韓国は騒ぎますが、伊勢神宮を訪れるのを、如何考えたら良いのでしょうか？

彼らが、何を祈ったか、洞察してみましよう。小沢代表は、「七月の参議院選挙の勝利と早期の政権獲得」でしょう。安倍総理は、「憲法第九条を変えて、強い日本を造りたい」という祈りではなかったでしょうか。

伊勢神宮の神と「憲法第九条」の関係を知っていたら、決してそのような祈りはできないのです。今日は、加古藤市師から得た情報から、その深遠な「神と第九条の繋がり」をご説明します。

## 日本の神々の相互関係は？

日本各地には、多くの神社があり、それぞれ由緒が書かれており、いろんな名前前の神が祀られております。

多くの日本人は、余り、神の名前に拘らず、近くの神社であれば、詣でて「家内安全、健康、長寿」などとお祈りしているのが、現状です。どの神社にお参りしても構わないのですが、神の世界にも厳然とした序列、重要性の順序があることを、知らねばならないのです。それを知っている日本人は、極めて少なく、加古藤市師を通して「きちんと知られるように」との啓示が下ったのです。

墮落していく日本、混迷を深め、何が真実かも判らなくなりつつある日本、年末年始には、神の前に詣でる魂は、残っていても、自分の我、願いを通す為だけの祈りの参拝では、その祈りは通じません。私達の今の生活ぶりは、間違っていないと神の前で、胸を張れるでしょうか？神とは、宇宙創成の神です。

あらゆる生命を地上に生み出し、育み生かしている大霊神理氣を神と呼びます。その神の期待に応えた生き方をしているでしょうか？

自分の利得のみを求めて、他の生命や他人を犠牲にしていないでしょうか？お互いに活かし合う生活をしているでしょうか？

人類は、生存競争と称して、争いは絶えることなく、国家間の戦争も何度とな

く繰り返してきました。今も世界の各地で、戦争が行われています。

何故、戦争が無くならないのか？何故、戦争する事がいけないのか、日本にあって、「憲法第九条」を守ることが、何故そんなに重要なのか、神から見た日本人の役割、日本人への期待が何故大きいのか、そんなことを知る為には、日本人に与えられた神の世界を知る必要があるのです。

神の世界には、歴然とした理由があって、根本の神から次の神の存在と言うふうに、序列、順序があることを、知ることは極めて重要なことなのです。

判り易く言えば、祖父母が居て、父母が居る世界を考えれば、祖父母を無視して、父母のみを敬っていくのは、間違っていると言うことです。

伊勢神宮が日本の最高の神と考えて行動している日本人は、これと同じなのです。神の世界は、生命誕生の仕組みの中にあります。

## 生命誕生の仕組み

太陽系宇宙産は、十三示元津で出来ていることを、ご存知の方は多いでしょう。

この十三示元津で、生命が誕生するのは地球だけです。

「生命誕生の仕組み」は、どうなっているのでしょうか？中心の働きは、太陽にあります。太陽は、丹（に又はたん）を生産出（うみだ）し、日輪から出た芒種（ぼうしゅ）のエネルギーと真光（まひかり）が一体となった真光（しんこう）が、亢進の状態を造り出し、その真光（しんこう）を丹が何時でもどこでも吸収できる状態を産み出すのです。

亢進の状態とは、エネルギーが溜まりに溜まって、爆発寸前の状態、高まる熱気で熱い田のような状態を言います。その莫大なエネルギーを伴った丹光（にこう）が、眼に見えない宇宙産迂迥の障壁賀へ光速の旅をするのです。

迂迥の障壁賀の中に天王平があるのですが、これは人間の子宮のような働きをします。ここでは、水星から冥王星までの十一示元津の星から絶えず「生（しよう）」を集めているのですが、人間の卵子に匹敵すると言えるでしょう。

天王平に届いた丹光は、丹を置いて、光は帰されます。この「入出口」から「丹」が進入しますが、言わば膈から精子が入るようなものです。植物、動物、人間と三つの「入出口」があるのです。この「入出口」を「天の意（い）和戸（わと）」と呼ぶのです。

そして、天王平の中で、「丹生（にしょう）・丹生（にゆう）魂（こん）遺伝子（いでんし）」となって受胎するのです。この遺伝子を入れる働きは、大正腑の大霊神理氣だと言われています。

数知れない転生の記録をインプットされるのです。

人間の場合は、正腑の魂になるよう、即ち正義と良心の腑がインプットされると共に、「御難賛助の御誓約（ごなんさんじょのうけひ）」をさせられるのです。「地上に出たら、決して争わず、助け合っていきます」という誓いです。

七二〇万年前、人祖が初めて地上に降りられた時から、この誓いは繰り返されたのですが、今や忘れ果てているのが、現状のようです。

この丹生魂遺伝子は、月界に降ろされます。そして、愛染波動により雄蕊・雌蕊、オス・メス、男・女に分けられるのです。

そして、地上で異性を伴った生命として誕生するのです。

さて、このような仕組みが、どうして判るのでしょうか？

地上に最初に降りられた人類の祖先は、哺子（ほし）が丹波宮津に降ろされ、零迦児となり、何度も脱皮を繰り返し、やがて人間童児（男）、童女（女）として成長されていくお話は、既にご存知だろうと思います。

成人する前に、童児は単身、南へ向かって旅をするのですが、偶然差し掛かった吉野山・創根ヶ峯の山頂で、自分が出て来た迂迦の天王平を思い出し、三つの「入出口」即ち「意和戸」を表したのでした。

この霊石は、何百万年も丹生家（童児の子孫）によって守られて来たのですが、天武天皇の時代に破壊されます。神武以降続く権力によって、人祖に繋がる歴史を葬りたいからでした。しかし、後に水分（みくまり）神社として、この植物、動物、人間が丹生・丹生魂遺伝子として宇宙産から誕生してくる仕組みが伝えられ、役小角（えんのおずぬ）によって、「三大蔵王権現」として現され、吉野山の蔵王堂に奉納されました。中央に釈迦如来、向かって左に弥勒菩薩、右が千手観音菩薩として、姿を変えて今日に至っています。

尚、吉野・桜本坊には、役小角が感得したと言われる「聖天」を秘仏として保管され、一年に一度、開帳されています。

この聖天像は、植物、動物、人間の生命の繁栄の営みが表現されているということです。日本に伝わる神の教えは、神武勢力に支配されるようになってから、全て神社から、又は神道として伝えられず、聖徳太子以降、導入された佛教を「隠れ蓑」として、仏の姿を借りて、寺院の中に伝え遣されてきたのです。

言い換えれば、神社、神道の中では、「真実が隠蔽され、忘れ去られて現代に至っているのです。

明治初期に「廃仏毀釈」が行われたのは、佛教、寺院の中にのこる真実を、消し去る狙いがあったのです。

天武天皇より少し遅れて、越前の越知山で修行された泰澄大師は、上吉野に、「三大蔵王権現」を祀られ、破壊された吉野を越前に復興されると共に、あらゆる生命は、「太陽の真光」と「芒種のエネルギー」そして、太陽が産み出す「丹」

から生まれ出ることを悟られ、「三所大権現」として、それを伝え遣されたのでした。「三所大権現」の中央には、「十一面観世音菩薩」、その右サイドに、聖観音菩薩、左に阿弥陀如来が座しておられ、この「三所大権現」は、今も大谷寺（おおたんじ）に安置されています。

尚、余談ですが、泰澄大師が彫られた「十一面観世音菩薩像」は、生命の源である「生」を育む示元津が、十一あることを現し、千手の三十八本の手は、人類のスタート、人祖が産み育てられた三十八人のお子からであることを、秘めたのですが、後の空海・弘法大師の「三大太元帥明王像」に大きな影響を与えるのです。

泰澄大師より九十年遅れて出られた弘法大師は、遣唐使として唐に渡り、恵果より佛教の源は日本から出ており、あらゆる教えの元は、日本の伊勢生成の神が大陸に渡り、釈迦により佛教となり、中国に流れてきていることを知り、胸躍らせて帰国を早め、日本へ帰るのです。そして高野山に伽藍を建て、この事実を伝えようとした処、大きな抵抗に遭つたのです。日本では、歴史が改竄され、人祖は九州高千穂の峰に天下った「ニニギノ尊」であると、神武勢力が権力に徹底していたからなのです。真実を明かせば、命も危ない状況の中で、これらの教えを、秘密の教え、即ち「密教」として、伝え遣されたのでした。

植物、動物、人間は、それぞれ異性（伊勢）として生命を授かっていること。人間の遺伝子は、人祖が産み出された三十八人のお子からスタートしていることを「三大太元帥明王像」の中に秘められたのでした。

## 神霊理氣の仕組みと神の序列

日本の歴史の中で、時代は異なるものの、この三つの伝え遣された教えから、「三示元津・生命誕生の仕組み」その「大神霊理氣」が明確になったのです。

整理しますと、「生命の源」のスタートは、『三所大権現』で現された世界にあり、その大神霊理氣は、生命生産だしの神、生産（しょうぶ）の神、熱田の神、即ち熱田神宮なのです。愛知県にある【熱田神宮】は、日本の神の源、「第一番の神」、最重要の神になります。

続いて、『二大蔵王権現』で現された丹生・丹生魂遺伝子を司る大霊神理氣を丹生津神として、「第二番の神」、【丹生津神社】にお祀りしているのです。

そして『三大太元帥明王』で現された「第三番の神」伊勢（いせい）生成の神、即ち【伊勢神宮】になります。以上が正しい神の世界の仕組みなのです。国家のリーダーは、伊勢神宮ではなく、先ず熱田神宮に参拝しなければなりません。

これらのことを、「正しく理解しなければならぬ」という神からのお知らせです。

## 歴史の真実を公にし、力を結集する時

広い世界の中で、小さな島国、日本に人類の祖先が誕生したこと、そしてその人祖が子孫に伝え遺されたことが、時代が大きく下るにつれて、判らなくなってきました。

又、その教えを破って、権力を求める人々が現れ、自分たちに都合の良いように、歴史までも改竄して、「真実」を隠蔽し、権力によって人々を統制、コントロールして権力者が快楽を貪(むさぼ)る体性は、神武以来、現代まで二五〇〇年以上も続いているのです。

眼に見えない大霊神理氣があって、人間初めあらゆる「生命」が宇宙産から誕生してくるということ、権力に抵抗しながら、命がけで伝えてこられた方々がおられるお陰で、今ようやく「超古代から伝わる真実の扉」を押し開くことが出来るようになりました。

今まで、お伝えして来たように、日本に伝わる真実は、佛教の中に「密教」として、又仏像の中に込められてきたのですが、時代が進んだ今や、個別に教えを伝えるのではなく、力を終結しなければならぬのです。

越前、越知山の太谷寺、吉野山の桜本坊、そして奈良高野山の住職、座主が力を合わせて、「真実」「教えの真髄」を明かす時です。

## 「教えの真髄」とは、何か？

役小角、泰澄大師、弘法大師ら先駆者が、命がけで教えられた「真髄」とは、なんでしょうか？この(地球)地上は、人間だけの為に存在しているのではないということ。植物、動物それぞれが、共存共栄するように、全てを生かし育む為なのですが、傲慢になった人間は、すっかり、そのことを忘れていきます。

知ろうともしない人が、増えてきました。男と女の世界であり、欲望を満たす世界であり、自分にとって都合の良い状態を求める、即ち利得の追求です。死ねば、すべて無に帰して終るのだから、生きている間に、出来るだけ快楽を追求した方が得。その欲望、希望を満たす神として、伊勢神宮へ参拝する。こういうことでは、ないでしょうか？

地球という惑星を縁として、植物、動物、人間が宇宙産から生まれてくる「仕

組み」を知れば、快樂主義や刹那主義は、消える筈です。十三示元津には、それを創造し、コントロールする大霊神理氣が存在する。

それは、日輪太陽の働きから始まり、地上へ異性として誕生することで、完結するのです。日本では、その大霊神理氣を神として、崇めてきたのですが、それぞれの神の働きが不明でした。

熱田神宮から始まり、丹生津神社、伊勢神宮に代表される神が、それぞれの働きをされているという事が、この度、明かにされました。

自分の力、我力で生まれて来たものではありません。自分の力で生きています。私が生かされていません。眼に見えない神理氣により、生かされているのです。私が生かされているということは、私以外の他人も生かされている筈です。植物も動物も、それぞれある程度の意思、魂を持っていることでしょう。彼らも生かされるべき存在です。人間の勝手で、動物実験をしたり、肉食する為に、彼らを無闇に殺すことが宇宙産の神から見ても、許される行為でしょうか？

今、地上では、動物を殺すだけでなく、人間を殺しあっているのです。世界各地で起きている戦争を、誰も止められず、成り行き任せです。大戦後、六十年以上平和が続いた日本ですが、いよいよ憲法第九条を変えて、日本も戦争の出来る国に仲間入りしようとしているのです。

小泉が地ならしし、安倍内閣で、風雲急を告げているのです。国民の過半数は、憲法改定に賛成しているようです。

マスコミの意図した報道を信じ込み、深く考えもせず、憲法改定に反対しない国民の運命は、風前の灯です。

人祖の国、日本です。昭和天皇を通して、神が与えた世界唯一の「平和憲法」を持つ国。「戦争しない、軍隊も武器も持たない」と明文化されているのです。これを世界に向かつて、アピールし、世界を争いのない状態にしていく使命が、日本人にあるのです。それを、アメリカの言いなりになり、「ご機嫌を伺っ

て、日本人の命を戦場に差し出そうとしているのです。世界平和に導く使命を放棄するだけでなく、自国である日本を戦場にしようと言うのです。誰が考えても、まともな日本人なら「反対」を表明する筈ですが、マスコミや権力にマインドコントロールされた多くの日本人は、最早、家畜並みの存在に成り下がっているのです。されるがまま、先のことは何も考えない、今の自分が安泰であれば、何がどうなっても良いと考えているのです。こういう考え方は、最早、人間の尊厳を放棄した考えです。動物と同じです。世界の中で、日本は本当に「特別の国」なのです。

「大和」の国、大きく和していく国、権力は求めずとも、協調して生きていける民族なのです。そのような生き方を世界にアピールし、指導していく責務があるというのに……。何と情けない状態と言っべきでしょうか。

整理しますと、日本に命がけで伝えられた教えの「真髓」とは、地上の生命、即ち、植物、動物を含めた生命が、人類と共に繁茂、繁殖するように、人間は行動すること。そうであれば、自然破壊は起こりようもないこと。又、人類の平和の実現は当然として、飢餓の脱出に貢献し、人類皆が等しく快適な生活が出来るように力を合わせることです。当面は、世界の戦争をなくす為、憲法第九条の精神を世界に伝え、広げていくこと。それしかないのです。これが教えの真髓です。ましてや、憲法を変えて、戦争できる国にしようなど、神が許す筈もないのです。

## 熱田神宮の神

日本で最高の大霊神理氣が熱田の神として、大正腑の神として熱田神宮に祀られていることが明確になりました。

熱田の神は、日本でお祀りする最高の神になるわけですが、全ての神のまとめとして「九氣九神」でもある訳です。先の太平洋戦争で、二発の原子爆弾を食らい、無条件降伏を決意するに当たって、昭和天皇は、皇祖皇宗の御靈魂に、心からすがられ、皇宗の御意志は、「二度と戦争をしない」を条件として「九氣九神」熱田の神に誓ったこととなります。熱田の神は「九条の神」でもある訳です。

「憲法第九条」は、偶然順序が九番目にきたのではないのです。「九条の神」と符号するのです。加古藤市師が、昭和天皇の大喪の礼で、お見送りしている時、テレビ画面で見せられた「不戦を誓う神聖画」の最上段に描かれた九本の旗は「九条の神」なのです。

## 熱田神宮の宝物の行方

ところで、熱田神宮境内には、曾って神宮寺が並立していました。その中に、医王院、不動院、愛染院があったのですが、明治初期の廃仏毀釈で、すべて取り壊されてしまったのです。その時重要宝物は、徳川幕府所縁（ゆかり）の愛知県南知多の野間大坊（水野家）に移されたのでした。この宝物の中に、弘法大師が描かれた「不動明王像」「愛染明王像」がペアで納められています。

## 不動明王像

この「不動明王像」ですが、不動明王の周りに、九羽の火の鳥が描かれており、奇しくも、これは憲法第九条に通じるのです。

不戦の憲法が、偶然の結果として、九条に謳われたのではなく、神の大霊神理氣がそのように導いたということなのです。

九羽の火の鳥のうち、上部の三羽は、「三所大権現」左右の三羽は、「三大蔵王権現」「三天太元帥明王」を現してもいるのです。

尚、この不動明王が手に持つ剣は「御難賛助」の誓いである「不戦」を現しています。弘法大師は、熱田神宮を日本で一番の神とされたのです。

尚、野間大坊で護摩を焚く時、護摩壇に並べる武器は、武器を使わないことを現すためであって、その逆ではありません。

又、護摩を焚く時、「ごま油と蜜と乳を混ぜた液を護摩木にかけるのだそうです。

こうすると、最も良い状態の炎がでるそうですが、本来の意味は、この生命界で生命が育つには、この三つが必要だと言つ事を現しているのです。これが得られる示元津は、地球だけなのです。

余談ですが、お釈迦さまの説かれた不動明王像は、「不動とは、人間の如何なる知恵・力を使おうと、動かす事の出来ない天地の理。即ち不動なり。」自然界の理を説かれたのです。

## 秋篠宮家の不思議

昭和天皇が京都御所で即位された時に使用された「悠紀殿」が、儀式終了後、昭和四年解体され野間大坊に移設されているのです。どのような「いきさつ」があつたか、不明ですが、徳川ゆかりの寺院と言つ面があつたかもしれません。

平成十八年九月六日に、天皇家としては、四十一年ぶりに秋篠宮家に男のお子が誕生しました。お生みになったのは、紀子さんであり、お子のお名前は「悠仁」親王ですが、親子の名前を繋ぐと、悠紀殿の「悠紀」となるのも不思議なものを感じます。

弘法大師の弟子の常暁は、空海が人祖をどうしても表に出せないため、どうしたものかと思案していましたが、ある時、秋篠寺の井戸に映つたお姿を「太元帥明王」とし、天皇の先祖として神武勢力にも受け入れられる形で公にし、正統天皇家の御本地佛として、明治四年まで天皇家に保管されていました。明治の初め、孝明天皇は、やがて自分が長州や公家の岩倉具視などにとって邪魔に



なり、暗殺されるであろうと予感され、自分が暗殺されたら、この御本地佛を東寺に預けるよう、お傍人に指示され、その通り成ってしまいました。この御本地佛は、やがて昭和天皇の御意志(みこころ)、その靈魂(たましい)が、秋篠宮家に渡されたと言うことです。

尚、秋篠宮家に誕生した男のお子は、この暗殺された孝明天皇の蘇りですから、人間の浅はかな知恵では、計り知れない神の仕組みと言わざるを得ません。

悠仁親王の添え木は、高野槇に決まったと発表されましたが、高野山の三大元帥明王とも繋がっていくようです。

## 今年、期待されること

毎日にアメリカの言いなりになって行く日本ですが、今の政治家に何かを期待しても無意味です。アメリカの指示に従わない政治家は、横田基地に連れて行かれ脅迫されたり、日本に自由に入出入りしているCIAに、何らかの処置をされるのです。そんな危険を犯して国民を守るうという気概のある奇特な政治家は皆無でしょう。

それよりも、強力な権力の言いなりになって、ご褒美に預かる方が、利口な生き方と考えるのでしょうか。もう、日本の政治に望みは無いのです。政治家に期待する前に、自分の意識を自覚めさせなければなりません。

先の大戦で日本は、「八紘一宇」を唱えながら大陸に攻め入り、韓国、北朝鮮、中国に多大の被害を与えました。

敗戦後の国家賠償として、膨大な金額と日本列島の分割統治を合国が提案しようとしたが、中国の代表である蒋介石は、これを拒み、自分も台湾に退いたのです。毛沢東卒いる中国でも、田中角栄が国交回復の調印に赴いた時、きっぱりと賠償金の要求をしない旨、明言してくれました。

戦後の日本の復興にとって、計り知れない要因であり、大きい恩義があるので、日本人は、すっかり、その事を忘れ、逆に中国を仮想敵国として、日米軍事同盟を強化し、戦後六十年以上すぎても、米軍の基地を、日本列島のあちらこちらに置いているのです。

アメリカに利用されているとしても、中国の恩義を知ったら、対応は異なった筈です。これこそ、恩を仇で返す、神をも恐れぬ行為なのです。

未だ、戦後の賠償について、一切話し合っていない北朝鮮が、核を所有し、ミサイルの発射実験をしたとして、日本は大騒ぎしました。今も安倍内閣の総理や閣僚は、北朝鮮による危機感を国民に煽っています。しかし、本当の危機は、別のところにあるのです。

日本列島にある米軍基地に核が持ち込まれ、日本がアメリカの核の傘に入ったと近隣諸国が見なした時、第三次世界大戦が勃発し、日本列島が核戦争の戦場になるであろうと、加古藤市師を通じて神が警告されているのです。

ところで、政治家の中には、開き直って本音を語る人物もいます。「憲法を変え、核兵器も検討した方が良い。同盟国・アメリカがやられている時は、日本もその戦闘に参加するのが当然である」「こつした考え方を語ります。非核三原則も、今や怪しくなってきました。

片や、本音も語らず、いかにも自分は平和主義者であるような顔をして、体制側に調査していく政治家も多いのです。こういう人物に大衆は、簡単に騙されるのです。選挙は、「騙し合い」のゲームです。

「公約」などの口先を信じて投票する愚かな国民は、増える事はあっても、減ることはありません。選挙の結果、益々自分の生活が苦しくなっても、政治家が悪いとは、おもわないのです。ましてや、自分の判断が間違っていたとは考えません。全く、押し易い能天気な国民です。しかし、何がどうあれ、憲法第九条だけは、どんなことをしても変えてはいけません。死守すべきです。国民が目覚めて、選挙で改憲論者を落せばよいのですが、これも今の意識レベルでは、余り期待できません。そこで、今年目指すべきことは、神の世界から加古藤市師に、予てから知らされている、全世界の戦争殉難死された総ての御靈魂(みたま)と、戦争の犠牲者になった一般民衆の御靈魂(みたま)を全て一同に集めて、全ての宗教が一丸なる「世界平和神宮院」と、憲法第九条の産み親、昭和天皇をお祀りする、「昭和神宮」を竝宮として、熱田神宮の元宮、尾張族が伊勢生成の神をお祀りした、名古屋市緑区大高町日神山地内、日本武尊が民草和氣の剣(くさなぎのつるぎ)を納められた地に、建設することを働きかける事です。

これは、靖国神社で揺れている近隣諸国に、日本の姿勢を示す大きな事に成ります。但し、この建設には平成天皇の御意思(みこころ)が必要になります。

そこで、秋篠宮殿下に、それを天皇にお伝えして頂くべく、お願いして頂くというものです。そして、天皇のご意思として、「憲法第九条を改定しない旨(むね)、希望する」と言って頂くのです。

世界の「メシア」たるべき天皇家が存続するか、アメリカを中心とした世界の闇の権力に飲み込まれてしまうかの、どちらかです。神の強いご加護を引き出す、国民の強い自覚が必要です。

平成十九年一月五日 御啓示を語る

豊受界

代表

三代目 東核芒種大伝道師 加古藤市